

# 相産だより

誠実 創造 努力



## 防災避難訓練

10月23日(水)5校時~6校時、防災避難訓練が行われました。地震発生に伴う津波を想定した避難誘導を実施し、各学年とも4階への垂直避難を行いました。今年は水消火器を使用した消火訓練も行いました。避難訓練終了後、体育館に集合し、防災講話を受講しました。講師は、防災士の資格を所持されている、高石幸子先生にお越しいただきました。高石先生は、上郡町の地域リーダー会の会長、および実行部隊として災害救援活動にも尽力されています。今回の講話は、これまでの災害で直面した課題を踏まえ、「クロスロードゲーム」として実施し、生徒が災害現場での当事者として、どのように発言し行動するのかを話し合う機会も設けました。



先生が最後に言われた印象的な言葉は、私たちが防災に備える重要なことは、「自分の身は自分で守る」ということです。東北の三陸地方で、「津波てんでんこ」という言葉があります。地震が起きたら、家族や他人のことも気にせず、まず自分の命を守るために、てんでん



ばらばらに避難せよ、というメッセージです。自分が一番に逃げるというのは薄情な気がしますが、一人一人が、まず自分の命の重みを考え、責任を持って守ることが、結果的に家族や他人みんなの命が助かることにつながるのだと思います。この言葉は、お互いの信頼の上に成り立っており、自助の大切さを包含しているのだと思います。私たちが与えられた尊い命です。自分の命は自分自身が責任もって守りましょう。

～防災講話を聴いて 生徒感想文(抜粋)～

- 講演を聴いて、もしもの時に備えることが、どれほど大切か改めて理解することができました。災害が起きた時に必要になるのは、私たち若者の力なので、避難所などでは積極的に活動しようと思います。
- 「自分の身は自分で守る」など、講師の方の言葉が印象的でした。災害時には、まず自分と自分の家族の安全を確保しながら、避難所で自分は何をすべきか把握して動き、また地域での助け合いが重要だと思いました。この防災講演会は、とても有意義なもので、災害への備えを強化しようと思います。
- 講演を聴いて、避難所でどのようなことが起こるのかは、あまり知りませんでした。避難所では、おにぎりの数が足りなくなったり、またコンセントについては自分のスマホを充電したくても、他に使いたい人、困っている人がいないかどうか、周りを見て行動することが大切だと思いました。災害時の基本となるのは家族会議で、ハザードマップを確認し、避難経路をしっかりと確認していくことも大切だと感じました。